

Syllabus Id	syl-122332
Subject Id	sub-122007700
更新履歴	20120315 新規
授業科目名	日本語 Japanese
担当教員名	高澤 啓子 Takasawa Keiko
対象クラス	留学生 4年生
単位数	2履修単位
必修/選択	必修
開講時期	通年
授業区分	語学
授業形態	講義
実施場所	留学生選択教室

### 授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

専門学校、大学などで必要な論理的文章の読解・作成、資料の読み取り・分析、プレゼンテーションに関する訓練を通し、日本で留学生活を送る上で必要なコミュニケーション能力と、日本語で学習研究活動を行うために必要な日本語能力を養う。長い留学生活を送るためには「生活に必要な日本語」「人間関係をつくるために必要な日本語」「学業に必要な日本語」がどれも必要となる。いまや高い知識と能力、技術があれば、日本人も外国人も同じ条件で進学・就職が可能な「国際人材時代」となっている中で、留学生にはより高い日本語能力が求められる。日本に長期滞在する留学生には、学習研究活動を行うために必要な日本語のみならずバランスの取れた高い日本語力を身に付けることがどれ程メリットがあることかを考える機会も持たせる。後期後半では、日本の大学に編入学する際の進学と奨学金のための面接指導も含む。

### 準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

日本語能力試験N2レベルの日本語能力

	Weight	目標	説明
学習・教育目標		A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
		B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
		C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
	◎	D	国際的な受信・発信能力の養成
		E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成
		D	
学習・教育目標の達成度検査	<ol style="list-style-type: none"> <li>該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験を持って行う。</li> <li>プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とする。</li> <li>目標達成度試験の実施要領は別に定める。</li> </ol>		

### 授業目標

自分の専門分野の論文を独力で読むことが出来る。論理的文章を書くことが出来る。知識として得た用語と表現を使用して実際にコミュニケーションが出来る。教科書の読解、講義の聴講、実験実技を円滑に行うことが出来る。「日本(人・社会)」という異文化を理解しカルチャーショックを克服出来る。

### 授業計画 (プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
第1回	オリエンテーション	授業概要、評価基準等の説明。地震と防災について。	
第2回	文体	レポート・論文に使われる文体	
第3回	文の基本	自動詞・受け身を使った文	
第4回	文の基本	助詞「は」と「が」の使い分け	
第5回	文の基本	語や文の名詞化、首尾一貫した文	
第6回	句読点	句読点の打ち方	
第7回	記号	各種記号の使い方	
第8回	引用	引用の種類	
第9回	段落	段落構成	
第10回	段落	段落相互の関係	

第 11 回	仕組みの説明	仕組みや状態の説明に使われる文型	
第 12 回	仕組みの説明	仕組みや状態の説明に使われる文型	
第 13 回	時間的経過の説明	時間的な経過の説明に使われる文型・表現	
第 14 回	時間的経過の説明	時間的な経過の説明に使われる文型・表現	
第 15 回	前期末試験	まとめ、復習	×
第 16 回	テーマ学習	高専祭参加（展示発表）	
第 17 回	テーマ学習	高専祭参加（展示発表）	
第 18 回	テーマ学習	高専祭参加（展示発表）	
第 19 回	テーマ学習	高専祭参加（展示発表）	
第 20 回	分類	分類に使われる文型・表現	
第 21 回	分類	分類に使われる文型・表現	
第 22 回	定義	定義によく使われる文型・表現	
第 23 回	定義	定義によく使われる文型・表現	
第 24 回	要約	1 段落の文章の要約	
第 25 回	要約	複数の段落から成る文章の要約	
第 26 回	面接	進学と奨学金応募のための面接練習	
第 27 回	面接	進学と奨学金応募のための面接練習	
第 28 回	面接	進学と奨学金応募のための面接練習	
第 29 回	面接	進学と奨学金応募のための面接練習	
第 30 回	後期末試験	まとめ、復習	×

### 課題

- ①沼津国際交流協会スピーチコンテスト「日本語の部」参加、②自由テーマの作文提出のうちいずれか一つ選択。②の提出期限：11月の最終授業
- 高専祭参加：初対面の日本人に、自分の国を紹介する

### 評価方法と基準

#### 評価方法

試験、課題、授業に臨む姿勢等を総合的に評価

#### 評価基準

前期・後期（試験 50%、課題・提出物 30%、出席・授業態度 20%）

学年末評価（前期 40%、後期 40%、選択課題 20%）

教科書等	二通信子・佐藤富士子『留学生のための論理的な文章の書き方』（スリーエーネットワーク） ¥1,400 『進学と奨学金応募のための面接設問集（過去の沼津高専留学生が面接時に受けた質問）』 その他必要に応じて教員が用意した教材・資料
先修科目	日本語初級・中級、日本事情、
関連サイトのURL	
授業アンケートへの対応	
備考	1. 試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2. 授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。 3. 習熟度に合わせてシラバス、教科書の変更を行うことがあります。